

(オプトアウト文書)

練馬光が丘病院を受診した患者さんおよびご家族の方へ

研究課題名：絞扼性小腸閉塞の外科治療成績を評価する後ろ向き研究

1. 研究の背景と目的

絞扼性小腸閉塞はきわめて緊急性の高い腹部救急疾患であり、迅速かつ的確な診断と外科治療が求められます。しかし、確定診断根拠となる CT 画像の解釈がしばしば救急医単独では難しいこと、放射線科医による夜間休日の画像診断支援が十分普及していないこと、緊急手術を施行できる医療機関が限られていることなどにより診断と治療に遅れが生じることが臨床現場の問題点の一つとなっています。当院では CT 画像読影に習熟した責任外科医が常に救急医のバックアップとして患者さんの初期診療に携わり、絞扼性小腸閉塞を含む腹部救急疾患の早期診断と早期治療に最大限の力を注いできました。本研究では、当院で絞扼性小腸閉塞の手術を受けられた患者さんの治療成績を後ろ向きに評価し、改善点を探索し、さらに質の高い診療につなげることを目的とします。

2. 対象と方法

2015年1月から2024年8月までに当院で絞扼性小腸閉塞に対する手術を受けられた患者さんを対象とします。診療記録より年齢、性別、病歴、来院日時、手術日時、血液検査所見、CT所見（絞扼性小腸閉塞に特徴的な腸管の閉鎖ループ形成、腸間膜浮腫、血流低下、腹水などの有無や程度）、手術で切除した腸管の病理組織所見、手術所見、術後経過、退院日時、転帰などを詳細に調査します。治療成績に影響を与える複数の因子を解析するとともに、本疾患の診療上の要点や注意点を考察します。

3. 研究結果開示の方法

研究結果は学会発表または論文にて公開します。

4. 研究対象となる患者さんの利益と不利益

本研究は後ろ向き研究であり、研究対象となる患者さんへの侵襲や介入はなく、したがって患者さんの利益も不利益も生じません。研究結果公表の際には氏名、生年月日など個人を特定できる情報を含まないようにし、患者さんの個人情報保護に十分配慮いたします。また、研究の目的以外には患者さんの情報を使用いたしません。

5. 研究機関名および研究責任者氏名

研究機関：練馬光が丘病院

研究責任者：外科 大橋真記

6. お問い合わせ先

本研究に関してご質問やコメントがありましたら下記の連絡先までお問合せください。患者さんの診療情報が当該研究に用いられることにご同意いただけない場合はお申し出ください。研究結果公開前であれば、研究対象から除外させていただきます。その場合でも患者さんに不利益が生じることはございません。

お問合せ先

所在地：〒179-0072 東京都練馬区光が丘 2-5-1

研究機関：練馬光が丘病院

研究責任者：外科 大橋真記 (E-mail: o-masaki@mvi.biglobe.ne.jp)

電話番号（病院代表）：03-3979-3611